

顧客満足度と採算性の向上を目指し、 部品事業のグローバルサプライチェーンを構築

「Dr. Sum は、パワフルな非定型分析で在庫圧縮や供給リードタイム短縮を実現する」



▲ グローバルな連結在庫管理を 実現する新たな共通基盤「G-FAST21」

「高品質・高性能」と「軽量・コンパクト」をコンセプトに掲げたモノ作りを追求するヤマハ発動機株式会社。モーターサイクルやスクーターなどの世界的メーカーとして、その名を知らぬ者はいないだろう。2005年に創立50周年を迎える同社は、次の50年での更なる飛躍を目指し、2002年4月より収益力の向上、成長性確保、財務体質の強化を3本柱とした新中期経営計画「NEXT50」に取り組んでいる。また、3本柱の一つである財務体質の強化のため、全社的にSCMのプロジェクトに取り組んでおり、部品事業においても「SCM100」というプロジェクトを進めている。このプロジェクト推進にあたって、重要なカギを握っているテーマの1つが、部品情報に関する「グローバルシステム基盤(G-FAST21)」の構築による、顧客満足度ならびに採算性の向上である。G-FAST21とは、世界各地の部品物流拠点が共通のプラットフォームを利用して、マーケットと部品工場、地域統括センターを結び、グローバルなサプライチェーン体制を実現するシステムだ。この狙いについて、同社ITセンターシステムソリューション第1グループ主査の望月一孝氏は、次のように語る。

「ヤマハ発動機の部品事業は、二輪車やマリンなどの補修部品に加え、オイルやアクセサリーなど多岐に渡っており、その管理点数は本社で約30万件、グループ全体で約50万点になる。また、部品生産は世界30ヶ国以上にまたがっており、マーケットへの供給も三国間貿易の進展などで年々複雑化している。このため、補修部品の在庫管理を本社と各国で個別に行っていた従来の方式では、在庫が重複したり、どこかの拠点到偏ったりといった問題が拡大していた。そこでG-FAST21では、グローバルな連結在庫管理を実施し、需要予測や在庫計画を一元化し、マーケット需要を即座にとらえて世界全体の在庫所要量を算定するとともに、必要数を部品メーカーに発注できるようにする。また、2005年までの完成を目指してアジア・中近東、中国、中南米に設置を進めている地域統括センターならびに本社部品センターの最適在庫数を決定し、供給リードタイムの短縮と物流コストの削減を実現する」

機能面からみたG-FAST21は、大きく分けてOP(受注販売管理)、PC(在庫発注管理)、MC(マスター管理)、MI(経営管理)という4つのモジュールから構成されている。同社は、このうちのMIモジュールのデータウェアハウス部分にDr.Sumを導入。汎用検索機能を強化し、部品事業部で仕入れや売上の管理を担当するエンドユーザに向けて、データ分析からレポート作成までをサポートしている。

INTERVIEW

望月 一孝 氏

ヤマハ発動機株式会社
ITセンター
システムソリューション第1Gr
主査

連結在庫管理、地域統括センター管理を行う 共通基幹システム (G-FAST21)



多次元高速集計ツール



採用のポイント。

▲ 用途に応じて個別開発していたデータ検索プログラムを半分に削減

G-FAST21を構築する以前の部品事業部における汎用検索は、クライアント端末から基幹システムのデータベースへ直接アクセスすることによって行われていた。このため、一時期に検索が集中すると基幹システムのパフォーマンスを大きく下げってしまうといった問題が発生していた。また、データ抽出の自由度が低いため、エンドユーザーからの要求に応じて個別にデータを用意し、検索プログラムを作成しなければならなかった。「販売、在庫、供給率という3種類に絞ってデータを提供していたが、これだけでも40本以上の検索プログラムが存在していた」と、望月氏は言う。

そこでデータウェアハウスを構築し、データ環境を基幹システムから切り離すとともに、Dr.Sumを導入することで、自由度の高い多次元のデータ分析を実現したのである。「この新しい汎用検索の仕組みにより、開発効率を大幅に改善することができた。Dr.Sumのもとでは必要なデータさえ用意しておけば、エンドユーザーは自由に集計できるので、基本的に作成するのは、基幹システムからデータをまとめてデータウェアハウスに蓄積するバッチプログラムだけでよい。クライアント/サーバ型の検索も一部残っているが、プログラム数は従来の半分の約20本にまで削減された。ちなみに、提供するデータの種類については受注残データなどを新たに加え、従来の約10倍に幅を広げている」と、望月氏はその導入効果を語る。

▲ 地域統括センターの稼働に向けて、G-FAST21の利用を拡大

データウェアハウス(OLAPサーバ)上では、全部で5つのキューブ(多次元データベース)が運用されており、日次のバッチでデータが送られてくる。現在、最も大きなキューブで約200万件、小さなキューブでも約120万件のデータが蓄積されている。部品事業部のエンドユーザーは、先月末の在庫確認といった定型的な集計作業だけでなく、在庫

圧縮や供給リードタイム短縮を目標とした様々な非定型な分析作業に、この大規模なデータを活用している。

「基幹システムへの影響を気にせずデータにアクセスできるようになったことで、例えば売上について地域別やディーラー別などの様々な角度から傾向を探ったり、部品特性から需要の変化を検証したり、特に集計パワーが要求される非定型な分析での利用が増えている。ただ、見えるデータが増えれば増えるほど、エンドユーザーからは、こんなデータも追加してほしい、もっと詳細なレベルまで掘り下げられるようにしてほしいといった要望が出てくる」と、望月氏。逆にいえば、こうしたエンドユーザーの要望にきめ細かに応えていくことで、同社はデータの精度を高めてきたのである。

そして、常に改善を目指すこの取り組み姿勢は、今後においても変わることはない。「いま一番何とかしたいと考えているのは、売上などの蓄積型データと、在庫などの更新型データを分離すること。より効率的にデータを管理できるようにキューブの設計を見直すことで、使い勝手はさらに良くなり、キューブの再構成にかかる時間も短縮することができる」と、望月氏は言う。

G-FAST21は2002年12月に開発を完了し、現在、日米欧で先行して利用を開始している。パーツセンター内における物流プロセスの大幅カットをはじめ、本社から海外ディーラーへ直接部品を供給する国際直送サービスでリードタイムを短縮するなど、すでに多くの成果を上げてきた。そしてG-FAST21は、新たに稼働する世界各地の地域統括センターでも順次利用を拡大していく予定だ。グローバルに展開する商流および物流を一元化するG-FAST21の本格的な始動で、ビジネスの簡素化と管理の高度化による顧客サービスの向上が可能となる。また、現地新商品の開発や企画、調達を加速させていくことで、連結ベースでのビジネス規模は、ますます拡大していくだろう。このG-FAST21の中核を支える基盤として、同社はデータウェアハウスひいてはOLAPソリューションを提供するDr.Sumに対して、さらに効果的な活用のあり方を追求しているのである。

● ヤマハ発動機株式会社 プロフィール

創立：1955年7月 本社：静岡県磐田市
事業内容：モーターサイクル、スクーター、ボート、ヨット、ウォータービークル、プール、和船、漁船、船外機、ディーゼルエンジン、四輪バギー車、レーシングカート、ゴルフカー、汎用エンジン、発電機、ウォーターポンプ、スノーモビル、小型除雪機、自動車用エンジン、産業用ロボット、産業用無人ヘリコプター、車イス用電動補助ユニット、乗用ヘルメット等の製造および販売。各種商品の輸入・販売、観光開発事業およびレジャー、レクリエーション施設の経営並びにこれに付帯する事業。

Dr.Sum に関するお問い合わせ

Form&Data



ウイングアーク テクノロジーズ 株式会社

URL <http://www.wingarc.com/>

- 【本社】 〒108-0075 東京都港区港南1-8-15 Wビル14F
TEL:03-6710-1700(代) FAX:03-6710-1701
- 【西日本】 〒541-0054 大阪府大阪市中央区南本町2-6-12 サンマリオンNBFタワー18F
TEL:06-6282-2620 FAX:06-6282-2622
- 【中国日本】 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F
TEL:052-218-9520 FAX:052-218-9521

開発元: デジタル・ワークス株式会社

詳細 URL <http://www.drsum.com>

本リーフレットに掲載した会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。掲載内容は2003年7月現在のものです。Access、Excellは米国マイクロソフト社及び、その他の国における登録商標です。